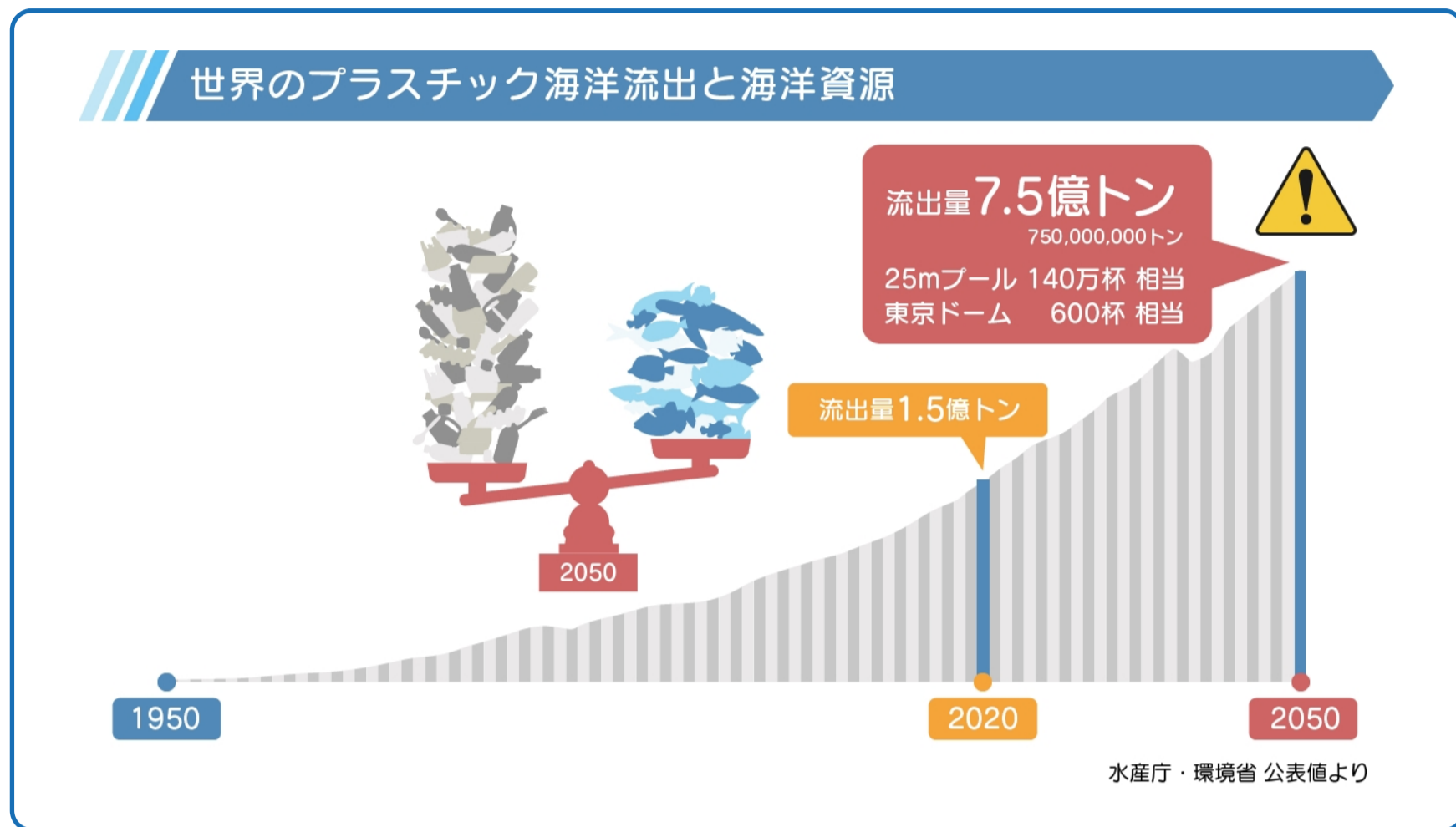


その他の海の環境課題

海洋プラスチックごみが多く、増え続けている現状



現在の海洋プラスチックごみの海洋流出量は800万トン/年（推定値）。その累積は1950年から現在まで1.5億トン、2050年には累積7.5億トンと想定され、海洋生物存在量を超えるとされています。
※水産庁・環境省 公表値より

プラスチックごみ
現在の海洋流出量

800万トン/年（推定値）

プラスチックごみ
2050年までの海洋流出量(総量)

1950年から現在まで
1.5億トン（推定値）



2050年には
7.5億トン（推定値）

海洋生物存在量を
超える

日本の海岸の漂着物の内訳は漁網とロープが40%

「漂着ごみ」の種類別割合				「プラスチック類のみ」の種類別割合			
	重量	容積	個数		重量	容積	個数
プラスチック	23.3%	48.4%	65.8%	飲料用ボトル	7.3%	12.7%	38.5%
金属	0.4%	0.6%	4.0%	その他ボトル類	5.3%	6.5%	9.6%
布	0.2%	0.1%	0.8%	容器類 (食品容器、トイ、カン)	0.5%	0.5%	7.4%
ガラス・陶器	0.6%	0.2%	2.8%	ポリ袋	0.4%	0.3%	0.6%
紙	0.03%	0.01%	0.3%	カトラリー (ナイフ、フォーク、スプーン、ナイフ、フォーク)	0.5%	0.5%	2.7%
木材	12.8%	7.0%	7.3%	漁網、ロープ	41.8%	26.2%	10.4%
その他人工物	4.7%	2.4%	3.1%	フイ	10.7%	8.9%	11.9%
自然物	58.0%	41.3%	15.9%	発泡スチロール片	4.1%	14.9%	3.2%
				その他漁具	2.7%	2.6%	12.3%
				その他プラスチック (ライター、消火器、電池、その他)	26.7%	26.9%	3.3%*

漂着ごみのうち、プラスチック製は個数の多さ以外に、容積や重量でもかなり大きな割合となっています。中でも漁網やロープは自然分解されにくい上、その重量から撤去コストが高く、放置につながっていると考えられます。

【調査内容の出典元】※1調査対象の10地点は、平成22～27年度の間に調査した5地点及び平成28年度に新たに選定した5地点の10地点。（全国の状況を表すものではないことを留意）※2各地点の海岸線50mの中に存在したごみの量や種類などを調査した。※3発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは個数の計測はしていない。
環境省：平成30年9月報告書転載 https://www.env.go.jp/water/marine_litter/conf/02_02doukou.pdf

漂着ごみの
種類別割合

海岸に流れ着くごみの個数を数えると約65.8%がプラスチック製である。

〈漂着ごみ〉
プラスチック類のみの
種類別割合

日本国内の海岸への漂着物のうち、漁網とロープが40%を占める。（重量ベース）

